

# Deming Prize



デミング賞委員会

# デミング賞創設のいきさつ

アメリカにおける品質管理の優れた専門家の一人であった故W.E.Deming博士（1900～1993）は、1950年6月15日、財団法人日本科学技術連盟（略称：日科技連）の招きにより来日されました。

東京・神田駿河台の日本医師会館講堂で、博士による「品質の統計的管理8日間コース」のセミナーが開催され、連日博士による講義が行われました。引き続いて、箱根では「経営者のための品質管理講習会1日コース」のセミナーが行われました。これらのセミナーで、博士は、わが国産業界の経営者、管理者、技術者、研究者に統計的品質管理の基本を平易に懇切に講義され、受講者に深い感銘を与えるとともに、揺籃期にあったわが国の品質管理の成長に大きな影響を与えました。

博士の8日間コースの講義は、速記によって記録され、“Dr. Deming’s Lectures on Statistical Control of Quality”の書名で有料配付されましたが、博士は、この講義録の印税を日科技連に寄付されました。日科技連の故小柳賢一専務理事は博士のご厚意に感謝し、博士の友情と業績を永く記念するとともに、わが国の品質管理の一層の発展を図るために、この講義録の印税を基金としてデミング賞の創設を日科技連の理事会に諮りました。この提案は理事会で満場一致で承認され、1951年6月、デミング賞の制度が設立されることとなりました。

その後、デミング博士の著書「Some Theory of Sampling」が日本語に翻訳、出版されましたが、博士からさらにこの著書の印税の一部の寄付があり、デミング賞の基金に加えられました。こうした経緯を経て、デミング賞は大きく発展しました。現在、この賞を維持するための経費はすべて日科技連によって負担されています。

またデミング賞大賞は、1969年10月に東京で開催された世界初の品質管理国際会議（ICQC'69 Tokyo）を記念して、この会議開催の意義を永く将来にわたって維持し、より高めるとともに、品質管理の一層の発展を図ることを目的として、同会議の剰余金を基金として1970年に創設されたものであります。



「QC8日間」コースで講義するデミング博士  
（於：日本医師会館講堂）

# デミング賞とわが国の品質管理の発展

デミング賞が、直接、間接的に日本の品質管理の発展に与えた影響は、はかり知れません。

デミング賞に挑戦された組織は、そのときどきの経営環境に応じた、時代が要求する新たな品質管理（「品質経営」といってもよい）を模索し、自らの組織にとって効果的な品質管理の方法を開発して、それを仕組みとして構築し、実践してきました。

自ら挑戦した組織にとって、それは、品質管理によるレベルの向上とともに経営的に成功することができるという「経営における一つの理念」を実感する貴重な体験であります。それらの組織の方法論に啓発され、新たに品質管理に取り組む他の組織にとっては、品質管理が経営における成功の重要要因であることの実証を目の当たりにし、賞への挑戦は数々の有益な方法論を学ぶことができる絶好の機会であります。こうした波及効果が品質管理の方法そのものの発展を促し、組織におけるレベルの高い実践を生むことにつながってきています。

こうした自己成長を促すメカニズムは、デミング賞における審査の仕組みにあったといえます。もっともそれは、デミング賞の採点基準が不透明・不明確という指摘を受ける一つの要因にもなりました。そこで、現在ではより審査の透明性を高め、デミング賞の意図するところをわかりやすく伝えるために、「評価基準」を明示いたしております。

しかし、審査そのものは、それぞれの組織の状況を反映したものとすべきであるとの基本的な考え方は変わってはいません。

デミング賞の審査は、デミング賞委員会が提示する品質管理のモデルへの適合を求めるのではなく、自ら状況認識をし、課題と目標を定め、組織をあげた改善・改革を行った結果とその過程、そして将来にわたる有効性を評価しようとするものです。審査委員は、その組織の実状にあった課題が設定され、その組織の実状にふさわしい取り組みがなされてきたか、その活動により、将来より高い目標達成の可能性が期待しうるかを審査することに努めています。

デミング賞委員会は、デミング賞審査をいわゆる「審査」というよりも「相互啓発」と考えています。もちろん審査は第三者の委員によって行われますが、その判定はTQMに対する取り組みの姿勢、運営の状況、得られた成果などを総合的に判断することによってなされます。デミング賞委員会が問題を出すのではなく、問題も対応も受審する側が用意するという意味であり、ここに発展の要因があります。

このようにして、構築された日本のTotal Quality Control（TQC：全社的品質管理）は1980年代米国へ逆移転され、米国組織の復活に大きな役割を果たしたといわれています。「日本のTQC」は欧米では訳語としてTotal Quality Management（TQM：総合的品質管理）とされ、日本でも国際慣行にしたがって1996年にTQMと呼ぶことにしました。

この変革の時代に安易な道などありません。他人から与えられた問題に解答するだけで優れた品質マネジメントシステム、経営システムが構築できるとは思えません。自ら考え、自ら高い目標をおき、自ら挑戦する、デミング賞は、そのようなTQMを計画し、実践しようとする組織の経営改善・改革の道具になりうることをねらいとしているものであります。

# デミング賞の種類

デミング賞には、下の図に示すように、個人を表彰するデミング賞本賞、デミング賞普及・推進功労賞（海外）、デミング賞特別功労・実践賞および企業・組織を表彰するデミング賞、デミング賞大賞があります。

## デミング賞

**対象** 企業、機関、団体などの組織（以下、組織という）  
国内組織：組織の一部（工場、事業所、事業部）・全社を問わない  
海外組織：全社のみを対象とする

経営理念、業種、業態、規模、経営環境にふさわしいTQMが効果的に実施されている応募組織に授与する（年度賞）。



## デミング賞大賞

**対象** デミング賞またはデミング賞大賞を受賞し、3年以上経過した組織

デミング賞またはデミング賞大賞のレベルを3年以上にわたり維持・向上してきた応募組織に授与する（年度賞）。



## デミング賞本賞

**対象** 個人

「TQM」の研究に関し優れた業績のあった個人、またはTQMの普及に関し優れた業績のあった個人に授与する。



## デミング賞普及・推進功労賞（海外）

**対象** 主たる活動が海外に限定される個人

「TQM」の普及・推進に関し、優れた業績のあった個人に原則として3～5年ごとに授与する。



## デミング賞特別功労・実践賞

**対象** 個人

TQM活動、品質管理の実践、推進、普及、研究、指導、運営において、現場主導の実践的な活動に、特徴のある多大な貢献、活躍、役割を實踐してきた個人に授与する。



デミング賞委員会というTQMとは次の定義に示すものをいいます。

## TQM (Total Quality Management) の定義 (2009年10月改訂)

### 主文

顧客の満足する品質を備えた品物やサービスを適時に適切な価格で提供できるように、全組織を効果的・効率的に運営し、組織目的の達成に貢献する体系的活動。

### 解説

1. 「顧客」：買い手のみでなく、使用者、利用者、消費者、受益者などの利害関係者を含む。
2. 「品質」：有用性（機能・心理特性など）、信頼性、安全性などを指すが、第三者や社会・環境・次世代への影響を考慮する必要がある。
3. 「品物やサービス」：製品（完成品のみでなく部品や材料を含む）やサービスとともに、システム、ソフトウェア、エネルギー、情報など顧客に提供されるすべてを含む。
4. 「提供」：「品物やサービス」を生み出し顧客に渡すまでの活動、すなわち調査、研究、企画、開発、設計、生産準備、購買、製造、施工、検査、受注、輸送、販売、営業などのほか、顧客が利用中における保全やアフターサービスおよび利用後の廃棄やリサイクルにかかわる活動をも含む。
5. 「全組織を効果的・効率的に運営」：適切な組織・経営管理のもとで、品質保証システムを中核として、原価、量、納期、環境、安全などの諸管理システムを統合し、できるだけ少ない経営資源で迅速に組織目的を達成できるように全部門、全階層の全員で仕事を進めていくことをいう。このためには、人間性尊重の価値観のもとに、コア技術・スピード・活力を支える人を育成し、プロセス・業務に対し、統計的手法などを適切に用いて、事実に基づき、計画・実施・評価・処置（PDCA）の管理・改善を実施すること、さらに適切な科学的手法や情報技術の有効活用により経営システムの再構築を図ることが必要となる。
6. 「組織目的」：顧客満足の恒久的・継続的実現を通じ、組織の長期的適正利益の確保と成長を目指す。従業員満足とともに社会・取引先・株主等の事業に関係するすべての人々の便益の向上を含む。
7. 「体系的活動」：組織の使命（目的）を達成するために、明確な中・長期的なビジョン・戦略および適切な品質戦略・品質方針を定め、経営トップ層の強い使命感と強力なリーダーシップのもとに行う組織的な活動をいう。

■それぞれの組織において、その組織にもっとも適した経営を行うことが、デミング賞を受賞する最短経路です。デミング賞を受賞するためにとって、本来の経営から見て不必要なことを実施することは好ましくありません。それは、受賞のためにプラスにならないどころか、マイナスになる可能性があります。

■審査にあたっては、業種や規模などに応じたTQMがいかに工夫され実施されているかを重視します。すべての応募組織に一律・画一的な進め方を要求するものではありません。

■形式のみを模倣したり、必要以上の規定・標準を整えたりするだけの活動は、仮にTQMという名称のもとに活動が行われていても、賞を授与する対象となりません。

■一部に「デミング賞に合格するためにはレベルの高い統計的手法を用いなければならない」というような声がありますが、それは誤解です。

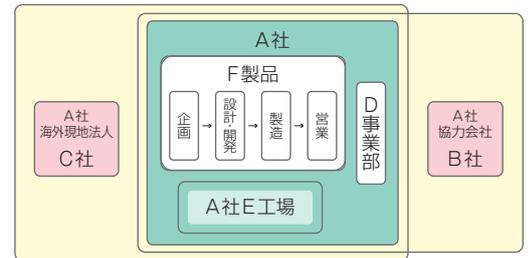
■応募組織の実態に適した新しい活動が含まれていれば、それは高く評価されます。

# デミング賞

## The Deming Prize

デミング賞は、経営理念、業種、業態、規模、経営環境にふさわしいTQMが効果的に実施されている応募組織に対して授与される年度賞です。国内組織は、一定の条件を満たせば、業種、規模の大小、公・私、組織の一部・全体を問わず応募できます。

各年度に賞を授与する組織数に制限は設けられていませんので、審査の結果、合格点に達していると認められた組織すべてにデミング賞が授与されます。



例 □の囲みのどのパターンでも応募可能となります。

### ●デミング賞を受賞できる組織とは

TQMにより、次の3項目を実現している応募組織に授与されます。

- A) 経営理念、業種、業態、規模及び経営環境に応じて、明確な経営の意思のもとに積極的な顧客指向の、さらには組織の社会責任を踏まえた経営目標・戦略が策定されていること。また、その策定において、首脳部がリーダーシップを発揮していること。
- B) A) の経営目標・戦略の実現に向けて、TQMが適切に活用され、実施されていること。
- C) B) の結果として、A) の経営目標・戦略について効果をあげるとともに、将来の発展に必要な組織能力が獲得できていること。

上記について、「評価基準」をもとに審査が行われ、賞を授与するかどうか決定されます。受賞組織には、賞状とデミングメダルが授与されます。

# デミング賞大賞

## The Deming Grand Prize

デミング賞大賞は、デミング賞（これまでのデミング賞実施賞、デミング賞実施賞中小企業賞、デミング賞実施賞事業部賞、およびデミング賞事業所表彰を含む）を受賞した後、受賞年度（受賞の年の1月から12月まで）を含め3年以上、経営環境の変化の中で「TQM」を継続して重点的に実施し、着実かつ効果的に組織目的を達成しつつある企業、機関、事業部、事業所、本部などの組織に対して年度賞として授与されます。

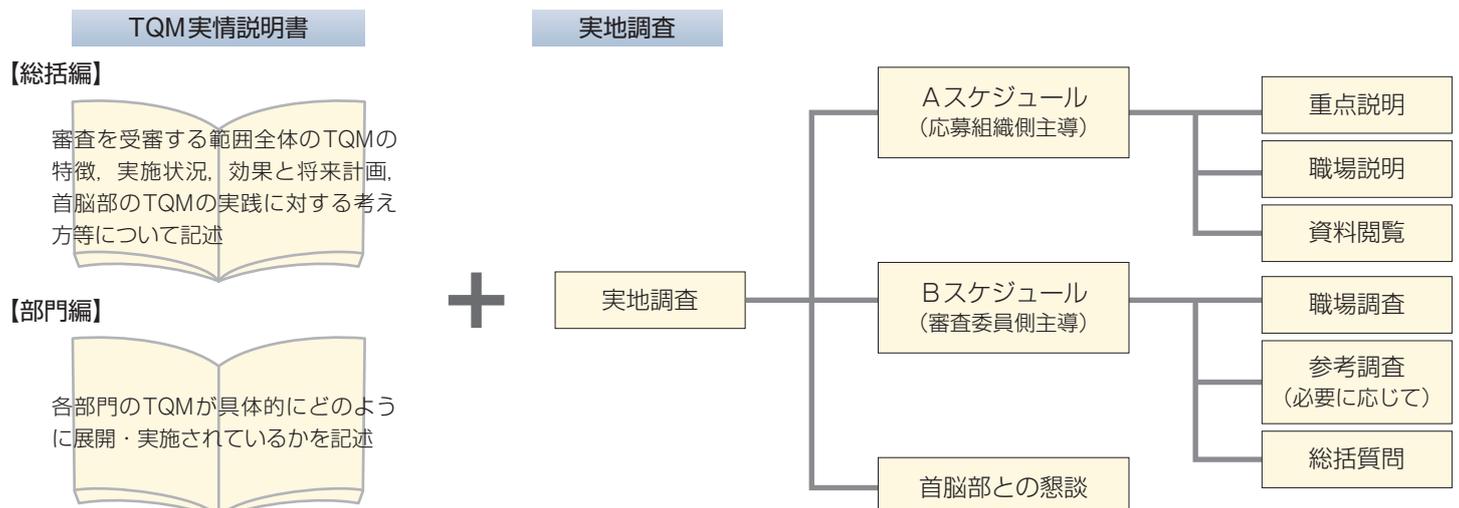
具体的には、デミング賞委員会より示されている

### 〈デミング賞を受賞できる組織とは〉

をいかに重点的・継続的に実施されたかに審査の重点がおかれています。また、経営にインパクトを与える品質創造、従業員満足度の向上、環境問題への取り組み、国際化、社会的貢献などについての「TQM」への新しい活動があれば、それが試行レベルのものであっても歓迎します。しかし、この部分は「あれば評価する」ということであって、受賞のための必要条件ではありません。

受賞組織には、賞状およびデミング賞大賞メダルが授与されます。

### デミング賞・デミング賞大賞 審査方法



# デミング賞・デミング賞大賞 評価基準

評価基準は「A 経営目標・戦略の策定と首脳部のリーダーシップ」「B TQMの適切な活用・実施」「C TQMの効果」の3つから構成されます。

## A 経営目標・戦略の策定と首脳部のリーダーシップ

評価の項目	点数
I. 積極的な顧客指向の経営目標・戦略の策定	100点
経営理念、業種、業態、規模及び経営環境に応じて、明確な経営の意思のもとに、積極的な顧客指向、さらには組織の社会的責任を踏まえた経営目標・戦略が策定されていること。組織として今後の目指す姿・将来計画が明確になっていること。	
II. 首脳部の役割とその発揮	100点
首脳部が、積極的な顧客指向の経営目標・戦略の策定とTQMの実施においてリーダーシップを発揮していること。経営目標・戦略や環境変化に対する識見があり、組織能力の向上・人材の育成・組織の社会的責任の重要性を理解していること。TQMに対する理解と熱意があること。	

## B TQMの適切な活用・実施

評価の項目	点数(配点)
III. 経営目標・戦略の実現に向けたTQMの適切な活用・実施	100点
経営目標・戦略の実現に向けて、TQMが経営のツールとして適切に活用され、実施されていること。また、その中で、科学的方法(統計的方法など)・ITが適切に活用されていること。	
1. 経営目標・戦略の組織的な展開	(15点)
経営目標・戦略が組織的に展開され、全員参加と、部門間及び関連組織間の密接な連携のもと、組織一丸となって実施されていること。	
2. 顧客・社会のニーズの把握と技術・ビジネスモデルの革新に基づく新たな価値の創造	(15点)
顧客・社会のニーズの把握と技術・ビジネスモデルの革新に基づいて、新たな価値の創造を目指した新事業の開拓、新商品(製品・サービス)の開発、及び/又は業務(プロセス)の改革が積極的かつ効果的に行われていること。	
3. 製品・サービス及び/又は業務の質の管理と改善	(15点)
a. 日常管理：標準化と教育訓練により日常業務でトラブルがほとんど発生せず、各部門の主要な業務が安定して行われていること。 b. 継続的改善：製品・サービス及び/又は業務の質に関する改善が計画的・継続的に行われ、市場及び/又は後工程からのクレーム・不良が減少している、あるいは極めて低いレベルに保持されていること。顧客満足度が向上している、あるいは極めて高いレベルに保持されていること。	
4. サプライチェーンを貫く、品質・量・納期・原価・安全・環境などの経営要素別管理システムの整備と運用	(15点)
組織にとって必要な経営要素別の管理システムが、パートナーや関係組織を含む、顧客を起点としたサプライチェーンを貫く形で整備・運用され、経営環境が変化する中で目的を確実かつ迅速に達成する上で有効なものになっていること。	
5. 情報の収集・分析と知識の蓄積・活用	(15点)
市場及び組織内の情報の収集・分析、業務に必要な知識の蓄積・活用が体系的に行われ、新たな価値の創造、製品・サービス及び/又は業務の質の管理と改善、経営要素別管理システムの整備と運用に役立っていること。	
6. 人・組織の能力開発と活性化	(15点)
人材の育成・能力開発が計画的に行われており、経営目標・戦略の実現及びそのためのTQMの実施、それを支える人・組織の活性化に役立っていること。	
7. 組織の社会的責任への取り組み	(10点)
社会の一員としての組織の役割と責任を認識し、経営理念、業種、業態、規模及び経営環境に応じた取り組み(例えば、環境保全、地域貢献、公正な事業慣行、人権の尊重、情報セキュリティなど)を、具体的指標を掲げ積極的に行っていること。	

## C TQMの効果

評価の項目	点数
IV. TQMの活用・実施を通して、経営目標・戦略について得られた効果	100点
TQMを適切に活用・実施した結果として、経営目標・戦略について効果をあげていること。	
V. 特徴ある活動と組織能力の獲得	100点
経営目標・戦略を実現する上で中核となる部分において、TQMの内容又は適用について特徴ある活動を行って効果を得ており、将来の発展に必要な組織能力を獲得できていること。	

## 合格判定の方法

### 1 基準

	デミング賞	デミング賞大賞
<b>A</b> 経営目標・戦略の策定と首脳部のリーダーシップ (100点満点)	70点以上	75点以上
<b>B</b> TQMの適切な活用・実施 (100点満点)	70点以上	75点以上
<b>C</b> TQMの効果 (100点満点)	70点以上	75点以上

### 2 判定の仕方

- 各審査委員は、上記A B Cについて別々に評点をつけます。
  - A B Cの評点は、それぞれについての各審査委員の評点のメディアン(中央値)であらわします。
  - 調査単位が1つの場合、上記A B Cいずれもが満たされたとき「合格」とします。
  - 調査単位が複数の場合、応募組織において果たしている役割などをもとに各調査単位の重みを決めます。また、応募組織全体の統括管理機能を有する組織を含む調査単位は③による可否の評価を、それ以外の調査単位は項目Aの「II. 首脳部の役割とその発揮」を除いた評価により可否の評価を行います。その上で合格の調査単位は評点1、不合格の調査単位は評点0を与えて、調査単位の重みをつけた評点の平均値を求め、この値が0.5以上であれば合格とします。(注)上記の評点は一切公表しません。
- なお、応募組織に社会的非難を受けるような行為があったと判断される場合には、可否の判定を行わないことがあります。

## デミング賞受審による期待できる効果

(1) 品質の安定・向上	(6) トップの夢の実現
(2) 生産性の向上/コストの低減	(7) 全員参加の品質管理と企業の体質改善
(3) 売上の拡大	(8) 管理・改善意欲の向上と標準化の推進
(4) 利益の向上	(9) 下部層からの大きな力の集結とモラルの向上
(5) 経営計画/事業計画の確実な遂行	(10) 管理システムと総合管理体制の確立

株式会社キャタラー 代表取締役社長 砂川 博明 氏

※役職は受賞時のもの

（2015年度デミング賞受賞，2018年度デミング賞大賞受賞）

キャタラーは1997年のQS 9000・ISO 9001の認証取得以降、TQM活動を継続的に行ってきた。2012年からは自工程完結の考え方を、事務・間接系を含む全社に導入し、品質経営を強化した。

全員参加のデミング賞・デミング賞大賞への挑戦を通じたTQM活動の強化により、グローバルVISION2025を策定し、全従業員が同じ価値観を共有できるようになった。また、目的・目標を考え仕事に取り組むなど、品質意識の向上が見られ、経営基盤強化の戦略として掲げた『自工程完結の考え方による進化した組織・人材・しくみづくり』が完成形に近づいた。

また、活動を進める中で、多くのプロジェクトが同時進行し、まさに千本ノック状態であったが、『忙しいからできない』と言った人はいなかった。このように輝く仲間とともに歴史に残る仕事が出来たことが一番大きなTQMの効果であったと感じている。

デミング賞大賞受賞後も、審査でいただいた貴重なご指摘やアドバイスをもとに、キャタラーとしての優先順位付けを行い、経営課題の解決に向けた取り組みを開始している。今後も、より高いレベルの品質経営を実践し、グローバルVISION2025の実現に向けて改革を進める。

アイホン株式会社 代表取締役社長 市川 周作 氏

※役職は受賞時のもの

（1981年度デミング賞実施賞中小企業賞受賞，2018年度デミング賞受賞）

当社は1977年にTQCを導入、1981年に「デミング賞実施賞中小企業賞」を受賞している。しかし、月日の経過と共にTQMに対する熱量は低下し、「顧客第一」の考え方も弱まり、会社全体よりも部門の利益を優先する風潮がみられ、このままでは会社の発展は望めないと感じられた。こうした状況を打破するには、会社の体質改善が不可欠であり、そのための人材育成が急務であった。そこで、TQMの活動の「再活性化」に取り組み、以下を中心とした様々な取り組みを進めた。

- （1）情報の一元化と共有による営業活動の強化
- （2）首脳部のリーダーシップと方針管理の徹底
- （3）アフターサービス体制の再構築と顧客満足度向上
- （4）QC検定を活用した全員参加によるTQM活動の実践

デミング賞受審の際に審査委員からいただいた指摘は当社が解決すべき課題に対する示唆に満ちており、その解決と新たな顧客価値の創造が、当社の持続的な発展に繋がるものと考えている。

株式会社オティックス 代表取締役社長 小田井 勇樹 氏

（2018年度デミング賞受賞，2021年度デミング賞大賞受賞）

当社は、家族的な雰囲気のもとやればやるほど評価の上がる“人間尊重型企業グループ”をめざし、組織づくりを進めてきました。その結果、顧客から数々の品質優秀賞をいただける企業へと成長できました。

自動車業界は100年に一度の大変革期を迎え、当社を取巻く環境も大きく変化してきました。その変化に対応できる企業体質の強化を目的に2014年にTQM強化宣言書、VISION 120を発出し、全員参加のTQM強化を図り、100周年を迎えた2018年にデミング賞を受賞しました。この活動での一番の成果は、全従業員特にQCサークル員の問題解決力の向上だと感じています。

TQM強化活動における指導講師の先生からのご指導、デミング賞受審時に審査委員からいただいたご指摘をもとにさらなる企業体質の強化を図り、VISION 120「顧客価値を追求するイコールパートナーへの成長」の実現をめざします。

株式会社麻生 飯塚病院 院長 本村 健太 氏

（2022年度デミング賞受賞）

当院では1992年にQCサークル活動（「TQM活動」と呼称）を開始し、2006年にはISO9001の認証を取得しました。さらに、トヨタ生産方式を病院運営に導入成功していた米国バージニアメイソン病院との交流を機に2010年に改善推進本部を設置し、Everyday Kaizen、Kaizen Workshopという二つの新たな形態の改善活動を導入し、当院の目標である「日本一のまごころ病院」に向けて職員一同が努力を続けていく体制を構築しました。これらの活動を基盤として、2013年には患者さんと接する現場の大きな改革である「セル看護」の導入に成功しました。

2018年からは、デミング賞挑戦によって中長期計画など方針管理体系整備を始め組織全体のTQMの強化につながり2022年受賞することができました。当院の受賞が病院としては初であったこともあり、多くの病院から当院の取り組みが注目され、TQM活動やセル看護の見学などに来られる方が多く訪れるようになっていきます。

# デミング賞本賞

## The Deming Prize for Individuals

デミング賞本賞は、

a) 「総合的品質管理 (TQM)」の研究に関し優れた業績のあった個人

または、

b) TQMの普及に関し優れた業績のあった個人

に対して授与される年度賞です。

デミング賞本賞は、デミング賞本賞選考委員会委員から推薦のあった個人を候補者として選考が行われます。ただし、候補者の主たる活動が海外に限定される場合には賞の対象とはなりません。

受賞者には賞状とデミングメダルが授与されます。また、日本経済新聞社から副賞として、賞金100万円が贈呈されます。



# デミング賞普及・推進功労賞 (海外)

## The Deming Distinguished Service Award for Dissemination and Promotion (Overseas)

デミング賞普及・推進功労賞 (海外) は、日本における総合的品質管理 (TQM) やデミング賞の普及・推進に関し、優れた業績のあった個人に対して授与されるものであります。

この賞の候補者は、主たる活動が海外に限定される個人に限られます。

この賞は、デミング賞本賞選考委員会委員から推薦のあった個人を候補者として、原則として3～5年ごとに選考が行われます。

受賞者には賞状とデミングメダルが授与されます。

# デミング賞特別功労・実践賞

## The Deming Distinguished Practice Award

デミング賞特別功労・実践賞は、総合的品質管理 (TQM) の考え方・方法論の具体的実践の重要性に光を当て、これらの面で顕著な貢献のあった個人を称えるものです。具体的には、TQM活動、品質管理の実践、推進、普及、研究、指導、運営において、現場主導の実践的な活動に、特徴のある多大な貢献、活躍、役割を実践してきた個人に対して授与されます。

この賞は、デミング賞本賞選考委員会委員から推薦のあった個人を候補者として、原則としてその年度1～2名が選考されます。受賞候補者は、個人としグループは認められません。

受賞者には賞状とデミングメダルが授与されます。

# 日経品質管理文献賞

## The Nikkei QC Literature Prize

日経品質管理文献賞は、「TQM」またはそれに利用される統計的手法等の研究に関する文献 (ソフトウェアをとまなう文献を含む) で、品質管理の進歩、発展に貢献すると認められる優秀なものを表彰するため、1954年に日本経済新聞社によって創設されました。この賞の審査はデミング賞委員会において行われ、デミング賞行事の一環として毎年賞の授与が行われています。

受賞者には日本経済新聞社から賞状が授与され、賞金120万円 (授賞件数により分割) が贈呈されます。

### 推薦または応募の資格

日経品質管理文献賞は、日本語で書かれた文献、または、日本を主たる活動の場としている著者の文献で、次に掲げる文献の作成者に授与されます。

a) 「TQM」またはそれに利用される統計的手法等の研究に関する文献 (ソフトウェアをとまなう文献を含む) で、品質管理の進歩、発展に貢献すると認められるものを対象とします。

b) 対象文献は、原則として、前年の7月1日から当年の6月30日までに公表されたものです。

注) ソフトウェアをとまなう文献は、過去3年以内に出版され、汎用性、有効性、独創性に優れ、入手が容易なものを対象とします。

注) 翻訳文献は対象となりません。

注) 出版関係者からの推薦は受け付けておりませんのでご注意ください。

# デミング賞委員会委員によるTQM診断

TQMを推進する上で、その現状をチェックし、効果的な推進を図るため、外部からの客観的な診断にもとづき助言を受けることは有意義なことです。デミング賞委員会では、1971年度よりこの観点から組織の希望に応じてTQM診断を実施し、TQMの一層の発展に役立たせるようにしています。

TQM診断は、デミング賞等の予備審査ではありませんが、2000年度から実地調査との結びつきを強化いたしました。なお、診断を受けた年には、デミング賞等に応募することができないことになっています。また、デミング賞・デミング賞大賞それぞれの受賞に対して1組織あたり2回以上のTQM診断実施の希望がある場合は、2回目以降の申込を受理するかどうかをデミング賞審査委員会でご判断させていただきます。

TQM診断は、デミング賞審査委員会委員が行います。

診断のプログラムの詳細は、受診組織側と相談して決定しますが、診断方法、診断で使用する資料等はデミング賞の審査に準じません。原則として受診組織側の説明、職場調査、資料調査および質疑応答により行い、診断終了後に簡単な講評をいたします。また、診断結果は各委員の意見を診断報告書にまとめてお渡しします。診断を希望する組織はデミング賞委員会事務局にご相談ください。

- ◆デミング賞委員会は、デミング賞・デミング賞大賞の応募、日経品質管理文献賞候補者の推薦を歓迎します。
- ◆デミング賞は、各賞とも推薦または応募の受付、審査、授与は1年に1回です。
- ◆デミング賞・デミング賞大賞の応募をお考えの組織は、「デミング賞・デミング賞大賞応募の手引き」をご覧ください。
- ◆その他、ご不明な点は、デミング賞委員会事務局までお問い合わせください。

## お問い合わせ先

デミング賞に関するお問い合わせは、下記デミング賞委員会事務局へどうぞ。

### デミング賞委員会事務局

〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1  
新宿第一生命ビルディング4F  
一般財団法人日本科学技術連盟内  
電話：03-5990-5852  
E-mail：demingprize@juse.or.jp  
URL：https://www.juse.or.jp/deming/

### ●アクセス

- 都営大江戸線「都庁前」駅下車 A7出口より徒歩3分
- 東京メトロ丸の内線「西新宿」駅下車 2番出口より徒歩5分
- 「新宿」駅下車 西口より地下道で徒歩10分

### ご案内略図

